

より良いサービス提供を目指して ～連携の取り方を考える～

老人保健施設 昂

久米崇史 武知孝典
笹原明美 久保はるな 大塚美穂
尾上朋子 光田奈津子



リハビリの継続



包括的ケアサービス



在宅復帰支援



在宅生活支援



地域・法人全体としての昴の役割



老人保健施設 提供サービス

	おもなサービス内容
入所	在宅復帰を目標に医学的管理のもと看護・介護・リハビリテーションなどの提供する。
ショートステイ 昇	施設に短期間入所して、食事・排泄・入浴などの日常生活上の支援を提供する。
デイサービス 昇	食事・入浴などの日常生活上の支援や、生活行為向上のための支援を行う。
昇通所リハビリ	短期集中的リハビリや生活行為向上のための支援を行う。
昇訪問リハビリ	理学療法士や作業療法士が自宅を訪問し、リハビリを行う。
昇指定居宅介護支援事業所	介護計画を作成し、適切な介護サービスを受けられるよう支援を行う。



現在昴では・・・

部署	人数
昴入所	1名
ショートステイ昴	1名
通所介護・通所リハビリ	3名
昴指定居宅介護支援事業所	8名

計13名の相談員・介護支援専門員が相談・支援業務にあたっている



相談員・ケアマネージャーの支援の役割

1. 入所

- ・入退所の調整
- ・新規面談・契約
- ・各種申請の手続き
- ・医療機関・サービス事業所との調整
- ・家族様や本人様からの相談 など



2. ショートステイ

- ・利用のための初回アセスメント
- ・利用契約手続き
- ・他機関とのサービス利用調整
- ・ショートステイ居室の調整
- ・家族からの福祉サービスの相談受け他機関への結びつけ
- ・サービス担当者会議への出席 など



3. デイサービス・通所リハビリ

- ・新規利用受け入れの際の説明・契約
- ・サービス担当者会議、リハビリテーション会議への出席
- ・利用前訪問
- ・計画書の作成
- ・毎月のモニタリング など



4. 昇指定居宅介護支援事業所

在宅で支援を必要としている方への

- ・介護計画(ケアプランの作成)
- ・各申請手続きの代行
- ・市町村・サービス事業所への連絡・調整
- ・給付管理 など



現在の連携の取り方

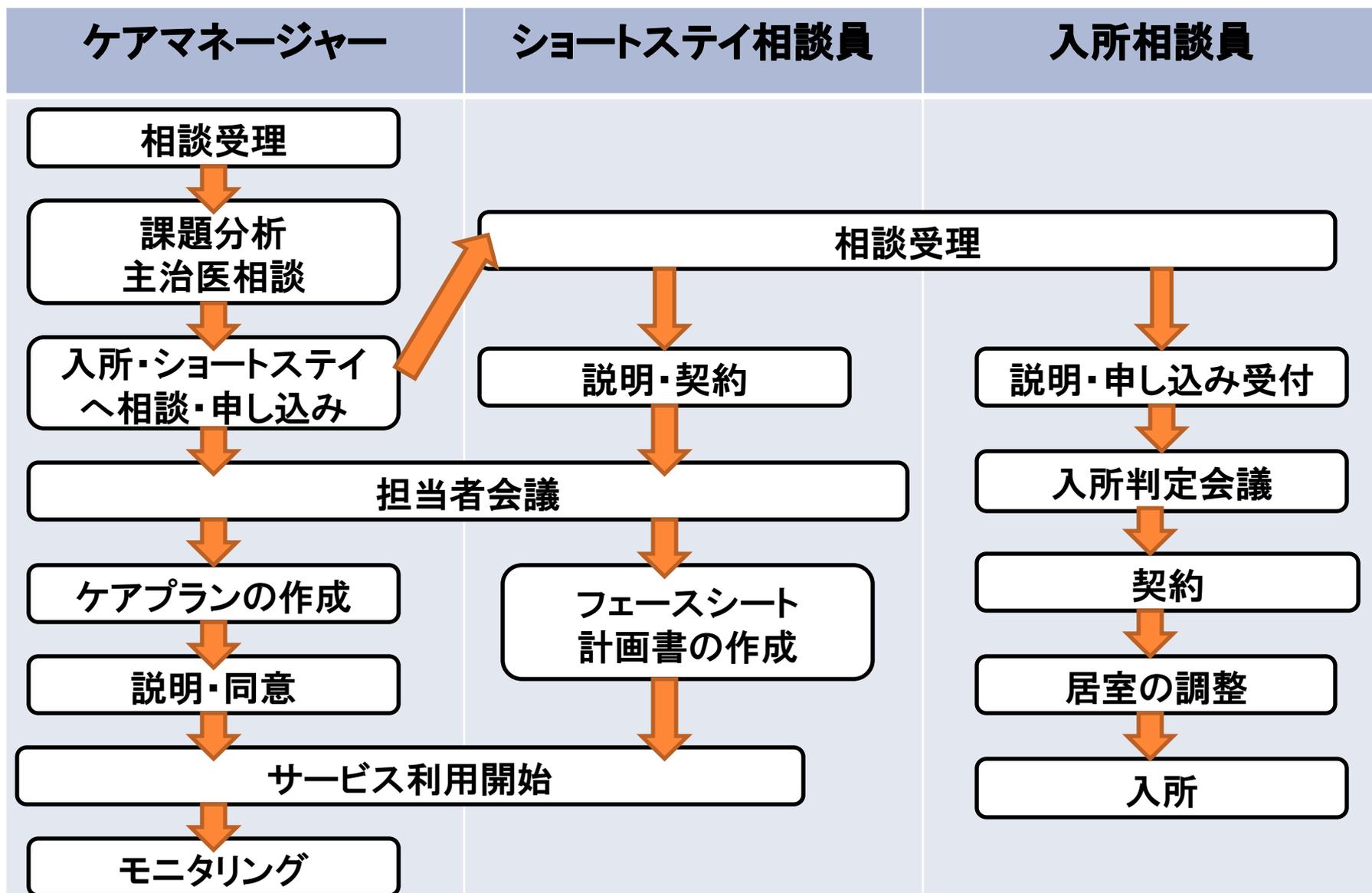


現在連携している会議・方法

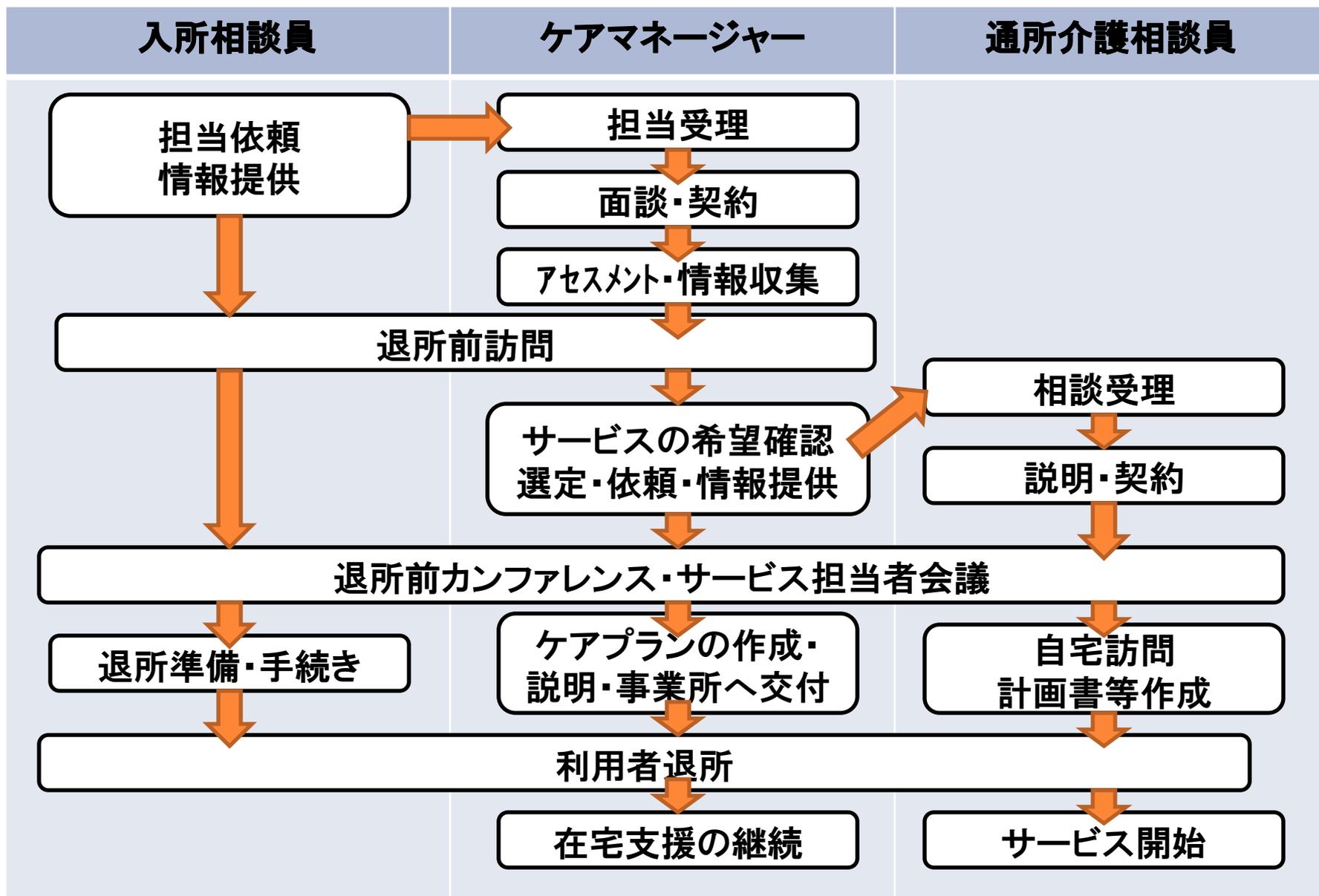
会議・方法	内容
朝 礼	各事業所の利用者の状況報告・日程の報告
ケアマネ会議	困難事例検討・新規/中止者の報告・制度の勉強会 併設病院地域連携室との情報交換
担当者会議	介護計画作成の前に行い、現在の利用者の生活状況・サービス利用状況や問題となっている事を検討
リハビリ会議	通所リハビリを利用している方対象に実施。リハビリの進み具合や、今後の目標について検討
退所前カンファ	老健を退所前に実施
退所前訪問	老健を退所前に実施。退所先の状況を確認し、必要な福祉用具や住宅改修の検討を行う
退院調整会議	併設病院地域連携室のスタッフとの情報交換
サイボウズメール	利用者の状態を院内メールで伝達し、情報共有を行う



①在宅生活の方が老健への入所を希望 (直接入所が困難、ショートステイを使う場合)



②入所からの在宅生活復帰支援 (退所後、通所介護を使う場合)



これまでの連携を振り返って

良かった点

- ・事業所内で顔を合わす回数が多いので、声を掛けあう事がしやすい環境にある
- ・相談員等が複数いるため、担当者が不在のときもフォローできる環境が整っており、緊急時でも対応しやすい
- ・共通の情報機器(リライやサイボウズ)を使用しているため、現在の状況が分かりやすい



改善が必要な点

- ・サービス担当者会議以外で各事業所が情報交換する場が少ない(最近の利用状況など)
- ・それぞれが得た情報が、関係者間で十分に共有できていないことがある
- ・フェースシートは情報量が多く、常に最新の状態にしておくことが難しい。急に情報が必要となった時にデータが古く、適切な状況把握に支障をきたす場合がある



連携をさらに深め、意味のあるものにしていくために…

- サービス開始後も、積極的に情報収集を行っていき、現場にフィードバックしていく
- 現在開催している会議の内容の充実を図る
- 新たなサービスを利用する時や、医療機関と連携を図る時は、最新の情報を提供する



取組みとして・・・

サービスの受託・依頼する時、または医療機関に情報を提供する際、直近の情報を速やかに提供出来るよう、新しいフェイスシートの作成を検討した。

フェイスシートとは

援助を目的とした情報収集において、使用される利用者の「氏名」「年齢」「性別」「家族構成」「健康状態」などの基本データをまとめた用紙



①それぞれの事業所で使用しているフェースシートの特徴・情報の優先順位の比較

	入所	ショートステイ
特徴	利用までの経緯を記載し、どのような理由で入所することとなったかわかるようにしている。また、ADLを詳しく書くようにしている。	病状や病歴、投薬情報などを得る為、かかりつけ医が他機関の場合は診療情報提供書の提出を求めている。また、どのような理由でサービスの利用に至ったかやADLの把握に努めている。
優先順位	<ul style="list-style-type: none">・部屋希望・既往歴・服薬情報・ADL・今後の予定(退所先)	<ul style="list-style-type: none">・利用日程・日数・病歴や治療中の病気・服薬情報・ADL・生活全般の状況(介護上・生活上)



	通所介護・リハビリ	居宅
特徴	相談表として統一し、利用日・身体状況・介護度等が誰が見ても一目で解るように簡潔にまとめている。	相談内容や生活歴に始まり、家族・居住・健康・身体機能・認知機能・精神行動障害・社会生活適応力など細かく分類されている。
優先順位	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用曜日 ・ 送迎方法 ・ 利用者様の身体状態（移動・移乗の際の注意点） ・ 内服、食事形態、かかりつけ医、既往歴 	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの生活歴 ・ 生活についての希望 ・ 日常生活動作のレベル ・ 認知機能 ・ 精神行動障害の有無の把握

② フェースシートの問題点抽出

- ◎ 家族関係や経済的なことは初回の面談では聞き取りにくい
- ◎ 新規利用者の場合、情報作成に時間がかかる
- ◎ 正確な日常生活自立度は主治医意見書を閲覧しないとわからない
- ◎ 一度作成したらきっかけがないと見直しがないので、急に情報提供が必要になった時、データが古い場合がある
- ◎ 提供側の情報と事業所が必要とする情報の内容や優先順位が違う



③ 考察

- それぞれの事業所が必要とする情報の優先順位を理解する
- 現場が必要としている情報や、分かりやすい提供方法とは何かを把握する
- 作成しやすい様式の検討（チェックや選択で作成出来るように）
- 複数枚でなく、1枚にまとめられるように情報量を絞る



④様式の制定

①かかりつけ医と医師名を記載し、緊急時の対応など取りやすくした。

②既往歴など代表的な病状などチェック方式にすることで、記載を容易にした。

③急ぐ場合に必要な最低限の情報を1枚にまとめた。

【利用者情報提供書】		平成 年 月 日	
フリガナ			
氏名	(男・女)	生年月日 M・T・S	年 月 日 ()歳
住所			電話 ()
要介護認定	障がい高齢者の日常生活自立度		J1 J2 A1 A2 B1 B2 C1 C2
	認知症高齢者の日常生活自立度		I IIa IIb IIIa IIIb IV M
緊急連絡先	フリガナ		
	氏名	続柄	
かかりつけ医	電話	() <input type="checkbox"/> 同居 <input type="checkbox"/> 別居 <input type="checkbox"/> その他()	
	かかりつけ医	主治医名	
ADLと身体状況	家族状況	<input type="checkbox"/> 独居 <input type="checkbox"/> 老夫婦世帯 <input type="checkbox"/> その他()	
	移動方法	<input type="checkbox"/> 独歩 <input type="checkbox"/> 杖 <input type="checkbox"/> 歩行器 <input type="checkbox"/> 車椅子 <input type="checkbox"/> その他() <input type="checkbox"/> 自立 <input type="checkbox"/> 一部介助 <input type="checkbox"/> 全介助	
	食事	<input type="checkbox"/> 普通食 <input type="checkbox"/> 粥食 <input type="checkbox"/> 嚥下食 <input type="checkbox"/> 治療食() <input type="checkbox"/> 自立 <input type="checkbox"/> 一部介助 <input type="checkbox"/> 全介助	
	入浴	<input type="checkbox"/> 一般浴 <input type="checkbox"/> 機械浴 <input type="checkbox"/> 特浴 <input type="checkbox"/> その他() <input type="checkbox"/> 自立 <input type="checkbox"/> 一部介助 <input type="checkbox"/> 全介助	
	排泄	<input type="checkbox"/> トイレ <input type="checkbox"/> リハビリ <input type="checkbox"/> オシメ <input type="checkbox"/> その他() <input type="checkbox"/> 自立 <input type="checkbox"/> 一部介助 <input type="checkbox"/> 全介助	
	整容	<input type="checkbox"/> 自立 <input type="checkbox"/> 一部介助 <input type="checkbox"/> 全介助 <input type="checkbox"/> 義歯(上・下) <input type="checkbox"/> 自歯	
	更衣	<input type="checkbox"/> 自立 <input type="checkbox"/> 一部介助 <input type="checkbox"/> 全介助	
	意志疎通	<input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> ときどきできる <input type="checkbox"/> できない	
	身体状況	<input type="checkbox"/> 問題なし <input type="checkbox"/> 問題あり()	
	既往歴	<input type="checkbox"/> 脳血管疾患 <input type="checkbox"/> 心疾患 <input type="checkbox"/> 認知症 <input type="checkbox"/> がん <input type="checkbox"/> パーキンソン病疾患 <input type="checkbox"/> 糖尿病 <input type="checkbox"/> 高血圧 <input type="checkbox"/> 骨折() <input type="checkbox"/> その他()	
服薬情報			
相談者	<input type="checkbox"/> 家族() <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input type="checkbox"/> 病院() <input type="checkbox"/> 他事業所() <input type="checkbox"/> その他()		
サービス利用までの経緯			
		担当ケアマネージャー()	

⑤ 検証活動

実際に相談支援の場で試用し、職員にアンケートを実施

(記入した相談員及び現場スタッフに聴取)

試用事例

(1) 地域包括よりデイサービスへ

新規依頼・・・2件

(2) 老健を退所し在宅復帰・・・2件



～アンケート結果より～

良かった点

- ・簡潔にまとめられており、伝わりやすい
- ・サービス利用までの経緯が記載される点
- ・必要な事項が一目で見つけやすい
- ・情報収集する側も聞きやすくなった
- ・優先順位が整理され、初回面談時に活用しやすくなった



改善したらいいと思う点

- 送迎状況などが無く、送迎時に混乱する
- 他のサービスの利用状況が不明
- 一部介助とはどの程度介助なのか
- 通院の状況が分からない
- 既往歴は病名だけでなく手術歴も記入してはどうか
- 緊急連絡先は複数あった方が安心



アンケート結果から見る 新しいフェースシートの課題

- ①改善点に上がった項目をどう盛り込んでいくか
- ②一枚にまとめているので、詳しい状態が把握しづらい
- ③現場で継続して使えるようにするには、どのような内容にしたらよいか



記載内容や表記の方法など、見やすく伝わりやすい様式に改善していく必要がある！



まとめ

今回昴で相談・支援に関わるスタッフで話し合いをする機会が持てた事により、それぞれの役割に対する理解が深まった。

その事によりお互いがどのような情報を必要とし、何を優先しているかを理解する事で、有効かつ効率的な情報提供が期待できる。



今後の目標

利用者や家族の声を直接聞くことが出来る職性を活かしながら、自分が知り得た課題や要望を共有し生活支援につなげる事で、『昴があるから安心して生活が出来る』と思って頂けるよう、利用者に寄り添ったサービスの提供を目指していきたい。



ご清聴ありがとうございました

